



のうりん すい さん だい じん しょう
農林水産大臣賞

ごめんねのおむすび

とやまけん たかおか しりつ さいじょう
富山県高岡市立西条小学校二年

ふた つか おう こ
二塚 王誇

「これしかできなくてごめんね。」

どようびのおひるごはんのとき、おかあさんはいいま
した。テーブルをみるとおかずはすくなくて、おむす
びはいつもとちがってのりやふりかけもついていませ
んでした。おかあさんは、

「たいちようがわるくて、ごめんね。」

「といってきます。ぼくは、

「あやまらなくていいよ。」

とって、なにもついていないしおむすびをはじめ
てたべました。

「めちやくちやおいしい。」

ぼくはとてもびっくりして、さげんでいました。なに
もついていないからふつうのあじだとおもったのに、
いつもよりあまくてしょっぱくてちょうどいいあじで
した。ぼくはすききらいがおおくて、ごはんもふりか

けやしょうゆをかけないと、たべられなかったのにふ
しぎでした。

おかあさんはぼくのよこで、

「うれしくてなきそう。」

とって、どうしてかわからなかったのできい
てみると、ぼくが「あやまらなくていいよ。」とって
くれたやさしさと、ふりかけなしでおむすびをたべら
れるようになったことがとてもうれしいからみたいです。
ぼくもうれしくなって、

「なにかてつだうことある？」

とききました。おかあさんはわらって、

「おおきくなったらこんどはわたしにおいしいおむす
びをつくってね。」

といました。ぼくはまだうまくつくれないのでれん
しゅうをはじめました。ちゅうがくせいになっても、
こうこうせいになっても、おとなになっても、ぐあいの
わるくなったおかあさんにおいしいおむすびをつくら
てあげたいからです。